

Arteの新たな統合 –バウハウスの照らす方へ–

<発表者氏名>

杉田佳穂(ミサワ・バウハウスコレクション学芸員)

水越伸(東京大学大学院教授)

小林真理(東京大学大学院教授)

長田謙一(首都大学東京システムデザイン学部インダストリアルアートコース教授)

工藤強勝(首都大学東京システムデザイン学部インダストリアルアートコース教授)

串山久美子(首都大学東京システムデザイン学部インダストリアルアートコース教授)

鈴木敏彦(首都大学東京システムデザイン学部インダストリアルアートコース准教授)

<代表者連絡先>

鈴木敏彦 E-mail suzuki@atelier-opa.com

<概要>

21世紀のバウハウスを標榜して、首都大学東京にアート&デザインの新たな専攻(コース)が誕生した。それは、TOKYOの風を呼吸しながら、新しい時代が求める諸Arteの統合、すなわちアート・デザイン・諸学・諸技術の、人間の生きる場に即した再統合をめざし、アート&デザインの新たな可能性をひらこうと志す。この理念は、しかし、あらかじめ完成形で示されるものではなく、ワーク・イン・プログ्रेस的に、開かれた形で形成されていくべきものでもある。本コロキウムは、そのプロセスの起点をなすものとして位置づけられる。



デッサウ・バウハウス校舎 (一九三一年) [撮影=山脇巖]